

On the Number of Petals and Flowering Season of *Sedum formosanum* N. E. BR. in the Danjo Islands, Nagasaki

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055949

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



は文部省が絡めばどうしようもないことだが、ローマ字表記がいわゆる文部省式であるため、最近のワープロや英語表記になれた人にはなかなか目的の単語を見つけられない恨みがある。なお、日本植物学会員は著者割引で入手できるとのことが、本書発行に大変苦労された金井弘夫氏による紹介記事として最近の生物科学ニュース(1990年4月号)に載っていた。(鈴木三男)

○ 男女群島産ハママンネングサの花弁の数と花期について(伊藤秀三*・中西弘樹**) Syuzo ITOW* and Hiroki NAKANISHI** : On the Number of Petals and Flowering Season of *Sedum formosanum* N. E. BR. in the Danjo Islands, Nagasaki.

男女群島に産するマンネングサ属の1種は、全体の形および種子で繁殖することから、一応ハママンネングサと同定される。しかし、花弁の数と花期がこれまでの記載と異なるので報告しておきたい。これを最初に注目したのは長崎県北陽台高校の江島正郎(私信, 1987)であり、彼が採集したものを筆者の一人中西が栽培していた。これとは別に伊藤は1989年秋に男女群島を訪れ、その特徴に気づき、採集している。

マンネングサ属(*Sedum*)植物の花は5数性で、ハママンネングサについても花弁が5、心皮が5であることが知られている(大井, 1965など)。例えば佐竹ほか(1982)の奄美大島産のもの、池原(1979)の沖縄産のもの写真を見ても花弁が5であることがわかる。しかし、男女群島のものはいずれも花弁4、心皮4、雄蕊8であり(図1)、これまで報告されているものと異なる。ただ、初島・中島(1979)の与那国島産のもの写真を見ると花弁は6であり、今後各地のものについて調べてみる必要がある。

一方、花期については奥山(1960)が6~7月としており、花の写真は沖縄で4月(池原, 1979)、奄美大島産のものが5月(佐竹ほか, 1982)となっており、春から初夏であることがわかる。しかし、男女群島のは10月上旬から11月上旬に咲き、この性質は栽培していても変わらず、はっきりしている。この違いはかなり重要な特徴と考えられ、男女群島産のものについて分類学的な取り扱いを検討する必要がある。

引用文献

池原直樹. 1979. 沖縄植物野外活用図鑑, 第4巻, 303 pp. 新星図書出版, 沖縄.

奥山春季. 1960. 原色日本野外植物図譜2, 176+18 pp. 誠文堂新光社, 東京.

大井次三郎. 1965. 日本植物誌, 顕花編, 1560 pp. 至文堂, 東京.

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫. 1982. 日本の野生植物II, 318 pp. 平凡社, 東京.

(*〒852 長崎市文教町1-1-89, 長崎大学教養部生物学教室 Botanical Institute, Faculty of Liberal Arts, Nagasaki University, Bunkyo-machi, Nagasaki-shi, Nagasaki 852; **〒850 長崎市弥生町666 長崎女子短期大学 Nagasaki Women's Junior College, Yayoi-machi 666, Nagasaki 850)



図1 ハママンネングサ(男女群島女島, 1989年10月3日伊藤秀三撮影)